

6 錢貨 (PL. 68)

錢貨は8種18点、錢文不明1点が出土している。

和同開珎 (1・2) 1は背面内郭縁の四隅が丸い和同開珎E。保存状態は良く錢文は鮮明である。6ADC-H区出土。2は和同開珎Aである。鋳上がりがあり良くななく背面の内郭縁*がずれている。SA5950の柱穴(北から16番目)から出土した。

萬年通寶 (3) 外縁幅が広く「潤縁」とよばれる萬年通寶B。鋳上がり、保存状態ともに悪く、錢文は腐蝕のため不鮮明である。6ADC-H区出土。

神功開寶 (4・5) 4は功の旁を「力」につくり、開は「開」につくる。「力功神功」とよばれる神功開寶B。6ADC-G区出土。5は「長力」と呼ばれ「刀」の第2画が長く伸びる*神功開寶E。SD6482出土。

隆平永寶 (6) 錢型の大小でわけた場合の「大様」に属する隆平永寶A。3片に割れており隆を欠失するが、鋳上がりは良く錢文は鮮明である。背面は鑄の仕上を行なわず、鋳造時に生じた細い隆起線がある。6ADC-G区出土。

開元元寶 (7) 錢文の磨滅が著しい。武徳4(621)年初鋳。6ADC-G区出土。

* **祥符元寶 (8・9)** 2枚とも同じ錢文である。祥符元(1008)年初鋳。6ADC-H区。6ADD-N区出土。

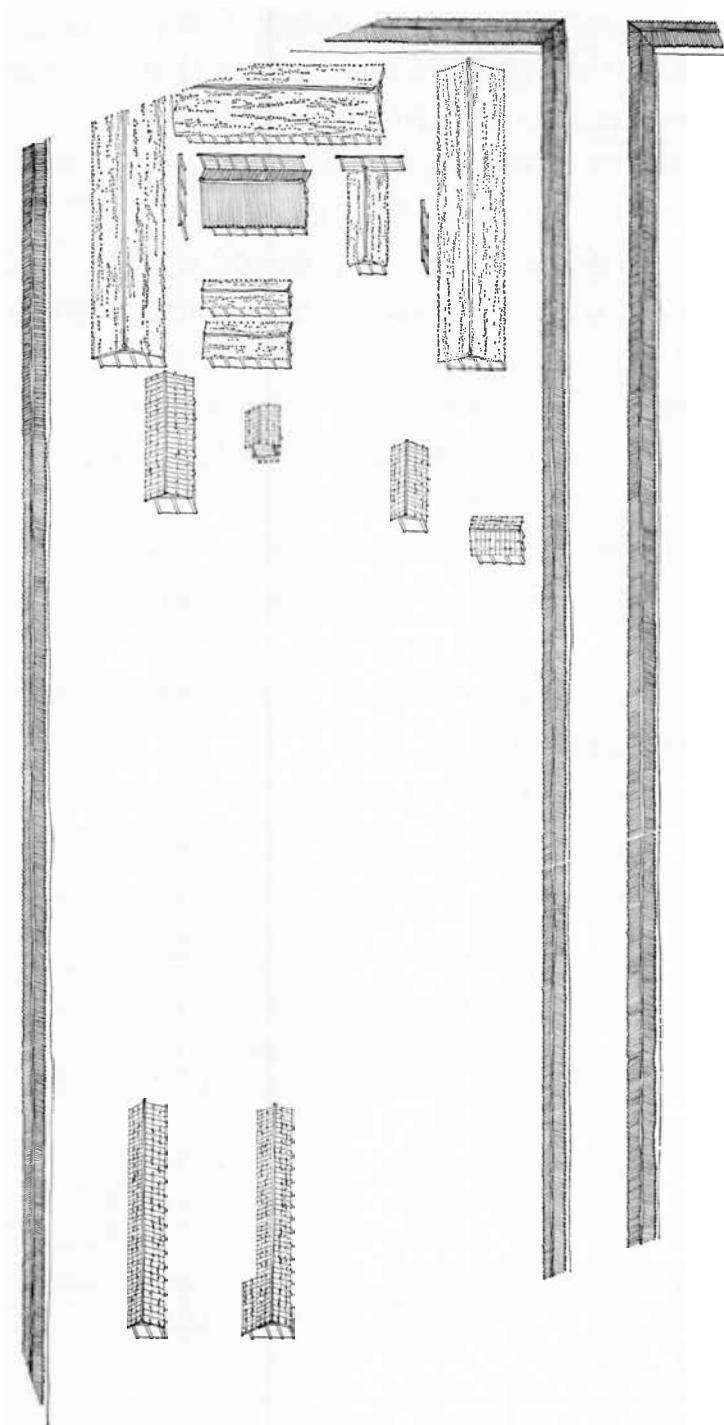
治平通寶 (10) 錢文には真書と篆書の2種があり、そのうちの篆書のもの。錢文は肉厚である。治平元(1064)年初鋳。6ADC-H区出土。

寛永通寶 (11~17) 7枚ある。計測値、出土地区を表示するにとどめる。

番号	錢貨名	(W)	(G)	(N)	(g)	(n)	(T)	(t)	(出土地点)	初鋳年	備考
1	和同開珎	1.515 ^g	24.28	21.08	7.53	6.58	1.02	0.19	6ADC-H	708	和同開珎E
2	"	2.834	24.73	21.13	8.03	6.10	1.42	0.61	SA5950	"	和同開珎A
3	萬年通寶	2.729	25.43	20.58	8.38	6.43	1.16	0.48	6ADC-H	760	萬年通寶B
4	神功開寶	4.467	25.55	20.50	8.65	5.95	1.52	0.82	6ADC-G	765	神功開寶B
5	"	1.470	24.20	21.18	8.83	6.45	0.83	0.27	SD6482	"	" E
6	隆平永寶	1.930	—	—	—	—	1.57	0.80	6ADC-G	796	隆平永寶A
7	開元通寶	2.855	23.95	19.68	8.60	6.55	1.27	0.52	6ADC-G	621	背面無文
8	祥符元寶	3.397	24.45	19.10	7.35	6.23	1.26	0.82	6ADC-H	1008	
9	"	3.184	25.05	18.75	7.73	6.23	1.14	0.60	6ADD-N	"	
10	治平元寶	3.477	23.75	18.65	8.13	6.60	1.31	0.72	6ADC-H	1064	篆書体
11	寛永通寶	2.410	25.05	20.28	7.30	5.83	1.24	0.62	6ADC	1626	
12	"	3.066	25.30	19.50	7.98	6.03	1.21	0.64	6ADC-P	"	
13	"	2.492	24.38	20.08	7.90	6.03	1.16	0.69	6ADC	"	
14	"	0.943	(21.65)	18.78	7.88	6.53	(0.51)	0.31	6ADD-K	"	
15	"	2.234	22.90	17.25	8.00	6.58	0.92	0.53	6ADD-K	"	
16	"	4.147	23.63	18.90	7.75	5.58	1.31	1.03	6ADC-O	"	
17	"	2.460	—	—	—	—	1.10	0.52	6ADC-O	"	

Tab.18 錢貨一覧

1) 『平城宮報告VI』 p.97~99。錢貨計測値についても本書を参照。



馬塚第IV期の遺構の想定図